

## 東南アジア古典文化論（アジア文化論Ⅱ 講義）

2009年1月22日 青山 亨

「古典時代の仏教物語」レジュメ

### このユニットのねらい

東南アジアの人々が受容した物語という視点から仏教を見直す。例として、仏伝（ブッダの悟りに至る生涯）を語るビルマの写本、ジャータカ（ブッダの前生での活躍）を語るボロブドゥールを取りあげる。ここから仏教が受け入れられた理由の一つが、ブッダの「波瀾万丈」な活躍にあったことを理解する。

### 『宝物集』のラーマーヤナのキーワード

- ・ 非戦・不殺生の思想 (ahimsā)、布施の思想 (dāna)、菩薩 (bodhisattva)

### 東南アジアの祝日

- ・ 別紙を参照

### 仏教の出現

- ・ 前5世紀頃、現在のネパール南端、カピラヴァスツ
- ・ シッダールタ
- ・ ブッダ (Buddha 仏陀)
- ・ ガウタマ (ゴータマ)
- ・ シャカ族の尊者 > 釈尊

### 仏教の教え

- ・ 四聖諦：苦集滅道
- ・ 諸行無常、諸法無我
- ・ 宗教組織としての仏教 三宝：仏法僧

### 仏教の発展

- ・ 仏教の発展は積層型  
初期仏教→部派仏教 →上座 (Theravāda) 仏教 (小乗仏教)  
→大乘 (Mahāyāna) 仏教→密教 (Tantric Buddhism)

### 東南アジアの時代区分

1. 小乗・大乘共存時代
  - ・ 東南アジアへの初期の伝播 別紙参照
  - ・ 密教はもっとも先端的な大乘仏教
  - ・ ボロブドゥール：小乗・大乘・密教
2. 大陸部：上座仏教時代
  - ・ 上座仏教：南伝仏教 (スリランカ) 13世紀以降
  - ・ 島嶼部では16世紀以降、イスラームの時代

### 上座仏教と大乘仏教の違い

- ・ 上座：パーリ語
- ・ 大乘：サンスクリット、漢訳、藏訳
- ・ 上座：先人としてのブッダ、仏陀、菩薩は歴史的存在
- ・ 大乘：超越者としてのブッダ、仏陀、菩薩は過去、現在、未来に無数

### 仏教の物語

- ・ 主人公：仏陀・ブッダ (Buddha) と菩薩・ボーディサットヴァ (Bodhisattva)
- ・ 行動のテーマ：智慧 (自らの悟りを目指す修行) と慈悲 (他者の救済)、自利利他
- ・ 背景：輪廻 (りんね) 転生、その対極としての解脱
- ・ 生誕 (ルンビニー)、出家と修行、成道 (ブッダガヤー)、布教 (サールナートで初転法輪)、入滅 (クシナガラ)

## 東南アジアの祝日

## インドネシアの祝日 2008 年

1月1日(火) 西暦新年  
 1月10日(木) イスラム暦 1429 年新年  
 2月7日(木) イムレック (中国暦 2559 年新年)  
 3月7日(金) ニュピ (サカ暦 1930 年新年)  
 3月20日(木) ムハンマド生誕祭  
 3月21日(金) キリスト受難日  
 5月1日(木) キリスト昇天祭  
 5月20日(火) ワイサック (仏教大祭: 仏陀の生誕、成道、入滅)  
 7月30日(水) マウリッド (ムハンマド昇天祭)  
 8月18日(月) インドネシア共和国独立記念日  
 《9月1日(月) 断食月 (ラマダン) の開始》  
 10月1日(水) イドル・フィトリ (断食明け大祭)  
 10月2日(木) イドル・フィトリ (断食明け大祭)  
 12月8日(月) イドル・アドハ (犠牲祭)  
 12月25日(木) クリスマス (キリスト生誕祭)  
 12月29日(月) イスラム暦 1430 年新年

## タイの祝日 2008 年

1月1日(火) お正月  
 2月21日(木) マカブーチャ (万仏祭)  
 4月6日(日) チャックリー記念日  
 4月13~15日(日~火) ソンクラーン (水掛祭り: タイ旧正月)  
 5月1日(木) メーデー  
 5月5日(月) 戴冠記念日  
 5月9日(金) 農耕祭  
 5月19日(月) ヴィサカブーチャ (仏誕節)  
 7月17日(木) アサハブーチャ (三宝節)  
 7月18日(金) カオパンサー (入安居)  
 8月12日(火) 王妃誕生日  
 10月23日(木) チュラロンコン大王記念日  
 12月5日(金) 国王陛下誕生日  
 12月10日(水) 憲法記念日  
 12月31日(水) 大晦日

ほかにカンボジア、ラオス、ミャンマー、シンガポールも同じ日が祝日。

## 義浄『南海寄帰内法伝』巻1(唐代)

「(南海では) 多くこれ小乗。ただ末羅遊に少し大乘有るのみ。」

## 義浄『根本説一切有部百一羯磨』巻5(唐代)

シュリーヴィジャヤ(スマトラ島南部)では仏教が盛んで千人もの僧侶が学んでおり、その様はインド本国と変わらない。中国からインドへ向かう者はここで勉強してから西へ進むのがよい。

## 参考文献

小林正典, 三友量順『ブッダの生涯』(とんぼの本) 新潮社, 1990.

中村元『釈尊の生涯』(平凡社ライブラリー) 平凡社, 2003.

中村元, 田辺祥二『ブッダの人と思想』(NHK ブックス) 日本放送出版協会, 1998.

安田治樹『図説ブッダ』(ふくろうの本) 河出書房新社, 1996.

「ブッダの生涯」

[http://www.actv.ne.jp/~yappi/tanosii-sekaisi/02\\_indo&SAasia/02-04\\_buddha.html](http://www.actv.ne.jp/~yappi/tanosii-sekaisi/02_indo&SAasia/02-04_buddha.html)